

「浙江大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学工学部物理工学科 1 年 森本祐生

私は、この浙江大学スプリングスクールに参加して、将来の大学院での留学に対して自分に何が欠けているかを明確にすることができたと考えています。具体的には、語学力のレベルがまだコミュニケーションをとるために全然足りていないことや、海外の人と会話を楽しむために必要である、相手の国の事前知識や文化背景を十分に知ることができていなかったことなどが挙げられます。また、留学前は漠然としていた院での留学という考えが、留学を経てある程度具体性を持ち、そして生じた問題点に対する解決方法を考えられる段階まで持つことができました。これは自分にとって非常に価値の高いことだと感じます。

このプログラムは、基本的には平日は午前が中国語の授業で、午後はフリータイムで班になって杭州を観光するという形でした。杭州の観光には、ただ観光名所をまわるだけではなく、中国古来の劇を見たり、杭州に拠点を持つ企業を訪問したりなど、自分たちが楽しみつつ、中国文化などを知ることができるようにプログラムが組まれていました。授業は長期で留学をしている人々のクラスに2週間だけ参加するという形でした。様々な国の人がいて、その人たちの話は個性的で興味深かったです。また、浙江大学農学部の学生の前でプレゼンをするという機会もあったのですが、英語でプレゼンをし、農学部の学生とも交流ができるという点で大変貴重な体験だったと思います。一度だけ週末をはさんだのですが、そこでは杭州を離れ、上海や蘇州、南京などにいくつかの班に分かれて観光に行きました。これらすべては、浙江大学のこのプログラムに対するボランティア学生の助けがないと成り立たなかったものばかりで、大いに助けられたように感じます。もし日本に彼・彼女らが来るときにはなにか手伝ってあげたいと思いました。

また、ボランティア学生の方々と交流を持ち、感じたことなのですが、彼らは自分の専門分野もこなしつつ、日本語を勉強して我々とコミュニケーションがとれるほどになっており、勤勉でした。彼らのそんな姿を見て、今後自分が大学でどのように学問と向き合っていけばよいのかということを考える上で、このプログラムは良いきっかけとなりました。

最後になりましたが、このプログラムに関わってくださった京都大学や浙江大学の教授、国際教育交流課の方々、ボランティア学生の方々、そして京都大学のプログラム参加者など、すべての方々に感謝します。この経験を糧に今後も中国語学習や自分の専門分野の学習に励んでいきたいと思っています。